

静岡大学OBグリーンクラブ 発足10周年記念演奏会

(静岡大学男声合唱団創立50周年)

賛助出演 浜松フラウエンコール



2010年7月25日(日)

浜松市福祉交流センター ホール

開演 13:30

主催：静岡大学OBグリーンクラブ

後援：浜松市 浜松市文化振興財団 静岡大学 浜松工業会 静岡大学文理・人文学部同窓会
静岡大学教育学部同窓会 静岡大学理学部同窓会 静岡大学農学部同窓会
浜松市合唱連盟 中日新聞東海本社 静岡放送・静岡新聞社

静岡大学 OB グリークラブ発足 10 周年記念演奏会開催によせて

静岡大学 OB グリークラブ 設立 10 周年記念演奏会にお越しの皆様、本日はご来場誠にありがとうございます。OB グリークラブの皆様、10 周年記念演奏会の開催、おめでとうございます。静岡大学を代表いたしまして、まずは御礼とお祝いを申し上げます。



私が OB グリークラブの活動を知りましたのは、3 年ほど前に情報学部長として浜松工業会の浜木支部総会にお招きいただき、菅井さまとお会いした時でした。その翌年、浜松工業会の東京支部総会で演奏をお聞きする機会を得ました。大学を卒業され、社会の第一線でご活躍なさりつつ、歌い続けていらっしゃる皆様の情熱には心から感服いたしておりますとともに、心許せる旧友とともに歌うことを心から楽しんでいる皆様を羨ましく思っておりました。

私は、静岡大学は人にやさしい大学でありたい、地域社会、同窓会など様々なコミュニティと大学の連携を強化し、皆で若者の成長を支える風土を育てたい、と願っております。OB グリークラブが更に活動の幅を広げて発展されるとともに、現役学生とも交流を持ち、学生たちの学びを手助けいただけるようになれば、静岡大学に素晴らしい風土が築けること間違いないと思っております。大学も積極的に OB の活動と連携し、OB と現役学生との交流の機会を設けていきたいと考えております。OB グリークラブの皆様、これからもぜひ活発なご活動を展開していただけますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

静岡大学学長 伊東幸宏

ごあいさつ

本日は静岡大学 OB グリークラブ 設立 10 周年記念演奏会にご来場いただきありがとうございます。50 年前の 1960 年、静岡で静岡大学グリークラブ、浜松で静岡大学工学部男声合唱団と 2 つの合唱団がそれぞれ第 1 回定期演奏会を始めました。8 年後、キャンパスの一部統合により、新生「静岡大学グリークラブ」として一つになり 20 年間活動してきましたが、諸般の事情により 1987 年に活動を終わりました。

しかしもう一度歌いたいという合唱への情熱が沸きあがり、10 年前に OB グリークラブとして再開し、集まる場所を関東、静岡、浜松、名古屋、京都と変え、年に一度親睦と合唱を楽しむようになりました。日ごろは各地区でバラバラにしか練習できない私たちは、昔のような演奏会は無理だと思っただけであきらめかけていましたが、学生時代に培った浜松弁で言えば「やらまいか」精神を奮い立たせ、無理を承知で 10 周年記念演奏会を開催する決意をし、今回にいたりました。

幸いにも、実力ある女声合唱団・浜松フラウエンコール様の賛助出演のお力添えをいただき、我々のみでは成し得ない充実した演奏会を開催できる運びとなりましたことを、厚く御礼申し上げます。

また、私たちが卒業して 50 年経っても歌いたいと思う心の中には、忘れられない恩師の存在があります。1959 年の夏休みの合宿で初めてご指導を受けてから OB グリークラブ発足時に至る半世紀に渡り、地域文化の大切さや合唱の厳しき、楽しきの両面で鍛えていただいた浦山弘三先生です。本日は本年 2 月にお亡くなりになった先生への感謝の気持ちを込めて歌いたいと思います。

私どもは、また明日から次の 10 年に向けて、本日も越しいただいた皆様の励ましを糧に静岡大学の発展にもお役に立つ新たなチャレンジを積み重ねてゆくつもりです。

静岡大学 OB グリークラブ理事長 菅井俊郎

プログラム

オープニング

静岡大学学生歌（われら若人）

指揮 平野 茂樹
作詞 高嶋 善二
作曲 石井 勲

第1ステージ

多田武彦作品集から
男声合唱組曲「草野心平の詩」から 石家荘にて
男声合唱組曲「中勘助の詩」から ふり売り
男声合唱組曲「富士山」から 作品第肆
作品第貳拾壹

指揮 桑田 武志
作詩 草野 心平
作詩 中 勘助
作詩 草野 心平
作詩 草野 心平
作曲 多田 武彦

第2ステージ

賛助出演 浜松フラウエンコール

鈴木憲夫作品から
ぬかるみ
このみち I
私と小鳥と鈴と
草山

指揮 守屋もと美
ピアノ伴奏 鶴見 通乃
作詩 金子みすゞ
作曲 鈴木 憲夫

合同演奏

ほほえみ

指揮 日下 忠彦
作詩 小田切清光
作曲 鈴木 憲夫

----- 休憩 -----

第3ステージ

男声合唱組曲「山に祈る」
山の歌
リュック・サックの歌
山小屋の夜
山を憶う
吹雪の歌
お母さん ごめんなさい

指揮 日下 忠彦
ピアノ伴奏 武藤 礼子
ナレーション 岡尾智津子
構成・作詞・作曲 清水 脩

第4ステージ

愛楽曲から
わが歌（団歌）
黒人霊歌 Steal Away
黒人霊歌 Swing Low Sweet Chariot
ふるさと
希望の島
Freie Kunst

指揮 名取 省三
作曲 シュポール
編曲 林 雄一郎
編曲 アンダーソン
作曲 オナーティン
作曲 ジョーンズ
作曲 シュトゥンツ

★ 総合司会（ナレーション）：松浦 勝

第1ステージ

多田武彦作品集から

多田武彦（1930-）は、高校時代から合唱を始め、京都大学男声合唱団の指揮者として活躍していました。作曲家 清水脩、林雄一郎そして山田耕筰から薫陶を受けているようです。

卒業後、銀行勤務の傍ら日曜作曲家として数多くの合唱作品を発表しました。その数は組曲単位で70作を超え、単作で数えると500曲にもおよびます。作品のほとんどは無伴奏の男声合唱曲で、歌いやすく演奏効果の高いそれらの作品は、日本の合唱界にとってかけがえのないものばかりです。彼の鋭く繊細な感性で選んだ詩に、彼が持つ西洋音楽の伝統的構築力や芸術性を加えて創りあげる叙情性の高い合唱曲の数々は、我々に“詩人の魂に寄り添う心”の大切さを教えてくれています。

石家荘にて

茫々たる中国大陸、詩人は北京南西の石家荘の街を訪れ、薄暗い部屋で月蛾（娼婦）と向き合う。
雷の光る夜、愛憎の底に沈む石家荘

ふり売り

亭主の収穫した海の幸を、天秤棒に振り分けて担いで売り歩く女性の呼び声

作品第肆

川面にふりそそぐ春の光、富士さえもなわとびに加わって少女たちと遊んでいるのに、その光景を物憂く眺める詩人、春愁

作品第貳拾壹

翠藍ガラスの大驟雨がまるで宇宙線を思わせる。分厚い雲の絶端にいきなりガッと現れた夕映えの富士、大自然の神々しさ

第2ステージ

鈴木憲夫作品から

ぬかるみ

このみち I

私と小鳥と鈴と

草山

素朴で豊かな感性、そして女性らしい慈愛あふれる目をもった類まれな詩人が金子みすゞです。1903年、山口県で生まれた彼女は、ほとぼしるような才能をもちながら、結婚生活は不遇で、離婚後は愛娘を引き取ろうとした前夫に抗って、自ら命を絶ちました。

26歳という短い生涯でしたが、創作した詩は500余に上り、優しくしなやかな言葉でうたう作品は、どれもみずみずしく、平成という今日でも鮮烈な印象さえも抱かせます。

金子みすゞの詩に作曲家鈴木憲夫が関心を寄せて、それら数多くの詩の中から数編を選び作曲したのが「みすゞこのみち」、「みすゞのそら」です。

本日は、この曲集の中から4曲を選んでみました。「このみち I」、「私と小鳥と鈴と」、「草山」は、1999年11月に下関少年少女合唱隊によって委嘱・初演され、「ぬかるみ」は、2004年11月に同じく下関少年少女合唱隊によって委嘱・初演されています。

ほほえみ

この曲は、合唱指揮者として多くの合唱愛好家の親愛と尊敬を集め、また静岡大学混声合唱団を長年にわたり育てられた辻正行先生（平成15年没）の古希の祝賀のために記念曲として委嘱され作られた曲です。先生は、磯辺俣の作品「遥かなる友に」のような多くの人々に愛唱される曲を希望しておられたようです。その準備の最中、癌に侵され帰らぬ人となりました。

永遠の別れを意識した曲ではなかったはずなのに、誰からも親しまれたあの辻先生の‘微笑み’に二度と逢えない別れの歌となってしまいました。

われら若人（静岡大学学生歌）

この学生歌は、1962年、静大祭の行事の一環として全学生から募集し、学生歌作成委員会では選ばれた、当時静大2年生の高嶋善二氏の歌詞を作曲家石井欽氏に委嘱してできあがりしました。

静岡県の名所と名物で静大生の心意気を歌いあげたものです。以来、半世紀にわたって歌い継がれていて、通常、学生たちは斉唱で歌っています。

本日は、1番を斉唱で、2番と3番を男声4部合唱で歌います。

第3ステージ

山に祈る

構成・作詞・作曲の清水脩氏は、楽譜の冒頭で組曲がつくられた経緯を述べています。

『昭和34年、長野県警察本部が、山での遭難頻発に業を煮やし、遭難者の遺族たちの手記を集めた「山に祈る」という小冊子を発行し遭難防止を訴えた。ダークダックスは、その巻頭に載った上智大学山岳部の飯塚揚一君の遭難を、同君の残した日誌と同君の母親の手記によって一篇の合唱組曲を作る企画を立て、私にその構成、作詞、作曲を依頼された』。

この組曲は、ピアノ伴奏付きの一般的な合唱とは趣きが異なり、ナレーション、ピアノ演奏、合唱が三位一体となって物語を進行させるところに構成の特徴があります。

昭和38年、昭和45年と、過去2回、定期演奏会で取り上げており、OBの私たちにとっても思い出深いものです。青春時代に返っての全力熱唱をお聴きください。

第4ステージ

わが歌(団歌)

わたしたち合唱団員が集まれば、いつでも、どこでも必ず歌い、いつのまにか合唱団の歌になってしまった愛唱歌です。

原譜は「Das Lied」。ドイツでベートーベンと同時代の作曲家L. Spohrによって創られた曲です。

Steal Away

Swing Low Sweet Chariot

黒人霊歌は、Negro Spirituals とも言い、黒人たちの心の叫びを歌っています。イエスに魂の安らぎを求め、故郷アフリカへの思いを込めて歌ったと言われています。

本日の2曲は、数多い黒人霊歌の中でも私たちの合唱団が好んで歌い続けている代表的な歌です。

ふるさと

わたしたちの愛唱歌のひとつとして比較的好く歌われている曲です。合唱団員たちにとって学生時代を過ごした第二の故郷である静岡の地でこの曲を演奏させていただくことは、懐かしさと同時に、長い間この静岡の地を離れていたことへの哀愁の念も込められています。

希望の島

合唱団の発足当時より団歌「わが歌」と共にあらゆる場面で歌われてきている愛唱歌の一つです。

原譜は「That Beautiful Land」。アメリカでつくられたものを同志社大学グリークラブが日本で早くから賛美歌の一つとして歌ってきた曲です。

Freie Kunst

日本名「自由の歌」として多くの男声合唱団で歌われてきたドイツの曲です。私たちは原語と日本語で歌ってきました。ドイツ全土に歌声を響きわたらせようと元気に歌う曲です。

恩師浦山弘三先生と静大グリークラブ

今回の演奏会には恩師浦山弘三先生への謝恩の意が込められています。静大グリークラブやOBグリークラブが約半世紀にわたって、ご指導いただいたからです。本年2月15日、先生は突然、病状悪化で帰らぬ人になってしまわれました。無念です。

浦山先生と静大グリークラブとの出会いは、先生が30代なかばの時からで、10年前、昔の卒業生たちが先生を囲み合唱活動を再開したとき、先生はとても懐かしげな、かつ嬉しげな表情をされていたのが、いまでも忘れられません。

しかし、練習を始めたとき、先生は「静大グリークラブには、君たちにしかない響きがあったが、今は何も残っていないぞ！」と本気で怒られました。

それを乗り越えての練習成果を先生に聴いていただこうとしていた矢先のことです。

本日は万感の思いを込めて合掌し、故浦山弘三先生に今回のステージを捧げたいと思います。



浦山先生喜寿のリサイタル
上野奏楽堂にて2002.9.28

プロフィール (1925-2010.2.15) 東京音楽学校(現東京藝術大学)卒。声楽家(日本歌曲・ドイツ歌曲)。

木下保・中山悌一・柴田睦陸に師事。大阪音楽大学名誉教授・関西二期会顧問・日本シューベルト協会名誉会員・関西音楽舞踏会議代表委員・西宮文化協会代表などを歴任。大阪府芸術祭奨励賞・大阪文化祭賞・西宮市民文化賞・神戸文化賞・長井賞など数々の賞を受賞。2006年瑞宝中綬章を受章。

指揮者・ピアノ伴奏者・ナレーター紹介

★ 静岡大学OBグリークラブ ★

指揮者 桑田 武志 1972年学生指揮者 工学部卒
日下 忠彦 現在、混声合唱団 清水トゥルヴェール指揮者 静岡県合唱連盟理事
1966年工学部卒
名取 省三 1968年学生指揮者 工学部卒

ピアノ伴奏者 武藤 礼子

武蔵野音楽大学卒業。ピアノを岩見はるみ、徳川愛子、神野 明の各氏に師事。
故辻 正行氏率いるTCFヨーロッパ演奏旅行、中国公演にソリスト及び伴奏者として同行。
静岡室内歌劇場、静岡クリスチャンコワイア、ジャパン・エヴァンゲリウムミッションのピアニスト及び静岡サミル聖書教会奏楽者を経て、現在静岡合唱団、静岡大学混声合唱団、コール・フェローニア各団のピアニストを務める。静岡室内歌劇場器楽会員。

ナレーター 岡尾 智津子

20代の頃、NHK静岡放送局内の静岡放送演劇研究会『劇団ゆうかり』に入団し、NHKのラジオ番組、舞台演劇に出演。1987年から朗演を始め、演出家の佐野暁に師事、毎年公演を続け現在に至る。またNHK放送劇団1期生の故加藤道子先生や2期生の声優に師事し、朗読、語りの公演に参加。

2003年より、『語り工房風韻』の東京公演で、朗読・語り・朗演・1人芝居等々に出演。
静大グリークラブとは、1970年以來の2度目の共演となります。

賛助出演合唱団紹介

★ 浜松フラウエンコール ★

浜松フラウエンコールは、平成3年“本格的な女声合唱団を浜松に”と大きな夢をいただき、10数名のメンバーでスタートしました。

平成8年から、岸信介先生・守屋もと美先生のご指導を受け、演奏会・コンクール・合唱祭など、意欲的に演奏を行っています。

昨年は、全日本合唱コンクール全国大会に初出場し銅賞を受賞、また、全日本お母さんコーラス全国大会では3度目のひまわり賞を受賞しました。

来年5月に20周年記念演奏会を開催予定です。初心を忘れずに豊かな音楽性を求めて、日々練習を重ねています。



指揮者 守屋 もと美

浜松市立高校、武蔵野音楽大学声楽科卒業。卒業後、日本合唱協会に入団、全国各地での公演やレコーディングに携わる。また、日唱定演「メサイヤ」等、多くのアルトソロも務める。

日唱退団後は、浜松にてリサイタル等のソロ活動を続けながら、PTAや地域の女声コーラス、小中学校の児童生徒のコーラス指導も行っている。

平成8年より「浜松フラウエンコール」を指導。

現在、浜松市合唱連盟理事、いちりつ同楽会会員、西部むさしの会役員、浜松声楽家協会会員。

ピアノ伴奏者 鶴見 通乃

桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。

ピアノを中島静、仲野喜久夫、大谷真美子、狩野美紀子、中島和彦、各氏に師事。

現在、浜松フラウエンコール、さみどり合唱団のピアニスト。

静岡大学OBグリークラブ 参加メンバー

()内は卒業年度、在住地

トップテナー		セカンドテナー		バリトン		ベース	
岩宮 征治 (63 姫 路)	瀬尾 弘吉 (60 横 浜)	川畑 徹夫 (62 調 布)	遠藤 健郎 (53 日 野)				
清水 淹 (63 横 浜)	河合 英夫 (62 横 浜)	久原 敬吾 (62 大 阪)	嶽野 功行 (60 春日部)				
松浦 勝 (63 倉 敷)	坂根 一廣 (62 刈 谷)	妹尾 真二 (63 神 戸)	植松 高豊 (61 富士宮)				
青葉 澄夫 (64 平 塚)	久田 輝夫 (62 北名古屋)	石川喜一郎 (64 森 町)	塩田 眞平 (62 豊 橋)				
鹿島 俊弘 (64 大 津)	桂川 昇 (63 小 牧)	檜垣 篤夫 (64 柏)	菅井 俊郎 (62 宇都宮)				
平野 茂樹 (64 藤 沢)	麻妻 要一 (65 佐 倉)	奥村 隆俊 (65 浜 松)	穂積 卓郎 (62 清 水)				
太田 宏 (65 船 橋)	中西洋一郎 (65 浜 松)	杉田 勝行 (65 八王子)	奥村 雄輔 (63 川 越)				
川村 進 (66 神 戸)	森 久義 (65 宝 塚)	中村 敬 (65 南足柄)	寺田 充孝 (64 安 城)				
松尾 治 (67 鎌 倉)	日下 忠彦 (66 焼 津)	本田貢一郎 (65 八王子)	中村 武司 (64 奈 良)				
広瀬 弘 (70 水 戸)	久保田昭六 (68 平 塚)	望月 謙治 (65 相模原)	高本 光章 (66 大 阪)				
藤井 良昭 (70 横 浜)	岩本 和生 (69 八王子)	大原 功 (67 安 城)	宮本 和雄 (67 福 山)				
深津 勲己 (71 浜 松)	乗松 秀明 (71 豊 橋)	竹内 正司 (67 横 浜)	桂 功 (68 清 水)				
金子 行夫 (72 習志野)	桑田 武志 (73 横 浜)	水口 章彦 (67 西 宮)	岡山 勇一 (69 松 山)				
住山 政弘 (76 富 士)	野寄 雅司 (73 浜 松)	大山 哲政 (69 横 浜)	酒井 保全 (69 武蔵野)				
森 雅宏 (76 沼 津)	松浦 淳 (76 青 梅)	山本 博史 (72 彦 根)	名取 省三 (69 志 木)				
松浦 一弘 (86 福 井)	菊池 義則 (77 大 阪)	芦田 道孝 (76 城 陽)	名波 義晴 (70 牧之原)				
		北嶋 利道 (76 静 岡)	吉野 正彦 (71 小田原)				
		飯田 光広 (77 菊 川)	大島 茂 (72 裾 野)				
		中川 亨 (77 豊 橋)	岡田 正治 (72 浜 松)				
		金山 秋彦 (80 浜 松)	斎藤 隆彦 (77 浜 松)				
		渡邊 徹 (83 静 岡)	田中 和夫 (77 町 田)				
			山本 真史 (99 豊 橋)				

支援メンバー

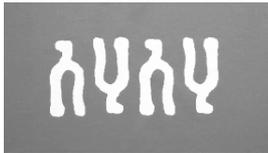
樽井 一雄 (59 清 水)	京野 久男 (63 富士見)	山根 兵 (65 甲 府)	村上 和男 (68 浜 松)
村木 美彦 (59 大 津)	栗田 博富 (63 岡 谷)	川邊 修二 (66 小田原)	神谷 享成 (69 豊 橋)
稲川 修 (60 浜 松)	斎藤 正男 (63 宇都宮)	小西 侃 (66 浜 松)	岡本 武久 (72 御殿場)
飯田 純一 (62 豊 田)	吉岡 捷爾 (63 京 都)	斎藤 攻 (66 厚 木)	中村 勤 (74 浜 松)
岩崎 誠夫 (62 愛 知)	赤沼 俊次 (64 亀 岡)	高橋 重之 (66 姫 路)	小谷 正俊 (75 福知山)
小林 武久 (62 日 進)	倉島 義明 (65 青 梅)	福武 知之 (66 市 川)	堀 清貴 (78 鹿 嶋)
萩倉 勲 (62 柏)	安原 源治 (65 昭 島)	松本 宏 (66 日 立)	山部 頼道 (78 笠 岡)
藤井 洋 (62 各務原)	柳沢 政實 (65 野 田)	宮島 幹雄 (67 八万平)	阿久津 浩 (84 宇都宮)

静岡大学グリークラブ50年のあゆみ

- 1959年 静岡大学グリークラブ(静岡の文理学部が中心)と静岡大学工学部男声合唱団(浜松の工学部が中心)が一緒に夏休みの合宿を岐阜県の恵那峡で開催、浦山弘三先生のご指導を初めて受ける
- 1960年 両合唱団がそれぞれに静岡と浜松で第1回定期演奏会を開催
- 1962年 静岡大学工学部男声合唱団が芝浦工大メンネルコールとジョイントコンサート開催、1972年までの間に8回開催
- 1964年 静岡大学工学部男声合唱団が日本合唱コンクール関東大会(2部)で優勝
- 1966年 両合唱団が第7回定期演奏会開催
- 1967年 両合唱団が統合し、新生静岡大学グリークラブがスタート 第1回定期演奏会を開催
- 1975年 横浜国大グリークラブとジョイントコンサート開催
- 1978年 愛知教育大・愛知大学男声合唱団とジョイントコンサート開催
- 1981年 広島大グリークラブ・京都大男声合唱団とジョイントコンサート開催
- 1984年 名古屋学院大グリークラブとジョイントコンサート開催
- 1986年 第20回定期演奏会を最後に休部

OBグリークラブ10年の活動

- 2001年 7月 第1回浜松総会 浦山弘三先生参加
- 2002年 6月 第2回京都総会 浦山弘三先生参加
- 2003年 5月 第3回箱根総会 浦山弘三先生参加
- 2004年 8月 第4回浜松総会 関東おとうさんコーラス大会 in 浜名湖花博参加
- 2005年 5月 第5回京都総会 京都総会成果発表会開催
- 2005年 11月 第5回東京男声合唱フェスティバル参加 関東支部(以降2009年の第9回まで連続出演中)
- 2006年 6月 第6回東海総会 東海総会演奏発表会開催・女声合唱団「グリーンコーラス」協賛
- 2007年 7月 第7回関東総会 関東総会発表会開催
- 2008年 6月 第8回静岡総会 静岡県民合唱祭参加
- 2009年 4月 第9回京都総会 京都総会成果発表会開催
- 2010年 7月 第10回浜松総会 10周年記念演奏会開催・浜松フラウエンコール賛助出演



記念演奏会実行委員より

この記念演奏会を開催するにあたり、後援して下さった各団体の方々、賛助出演して下さった「浜松フラウエンコール」さんのご協力のお陰で、なんとかここまで漕ぎつけることが出来ましたことを感謝しております。ありがとうございました。

OBグリークラブ理事長 : 菅井 俊郎
母校支部支部長 : 中西 洋一郎
関東支部支部長 : 久保田 昭六
関西支部支部長 : 川村 進
ホームページ : 寺田 充孝, 松尾 治
全体プロデュース : 平野 茂樹
総合司会(ナレーション) : 松浦 勝
チラシ、プログラムデザイン : 奥村 雄輔
母校支部実行委員 : 石川 喜一郎, 岡田 正治, 奥村 隆俊, 北嶋 利道, 日下 忠彦,
名波 義晴, 野寄 雅司, 乗松 秀明, 深津 勲己, 森 雅宏